

# 「総ぐるみ」新聞

NPO 総ぐるみ福祉の会事務所は日限山 4・45・10 (八四四一八八五〇)  
 入会や活動のお問い合わせ先は、事務所または「日限山荘」 日限山 4・7・1

## 茶話会 —— ピースボートによる世界の旅 ——

話題提供者 河西 マキ氏

去る六月二十四日の午後、日限山荘にて標記テーマによる茶話会が開催され、二十五名の方々が参加されました。河西さんは、ノートパソコンとプロジェクターを持ち込み、船の寄港地ごとに自身が撮影された数多くの写真を壁面に映し出して、説明してくださいました。お話の概略を紹介します。

### ● 船旅を思い立ったいきさつ

私の主人は糖尿病を長く患い、二〇〇七(平成十九)年十一月に亡くなりました。最後の三年間は視力を失い、一人ではどこへも行けずに、私の背負うリュックにつかまって病院通いなどをしていました。その頃の私は、このような家政婦兼看護婦兼盲導犬のような生活が、いつまで続くのかと暗澹たる気持ちでした。ある時、ショーウィンドウに映った顔のあまりに暗い表情に愕然として、これではいけない、将来に希望を持って明るい顔で生きようと決心しました。そして、主人亡き後は、遺産で世界一周の船旅をしようと心に決めました。そのようなかたが、飛鳥やクイーンエリザベス号とはいかなかったのですが、ピースボート

トによる世界の旅に出かけました。

### ● 最初の北半球クルーズ

私の夢は、二〇〇八年五月十四日～九月四日の北半球の旅で実現しました。友人の「まだ一周忌も済んでいないのに」という非難の声もありましたが、われわれ夫婦は、葬式・戒名・墓なし(海に散骨)、香典もいらないと決めていましたので、四十九日も一周忌もなしです。

横浜を出航して、南シナ海、マラッカ海峡、インド洋、スエズ運河、地中海、大西洋、ノルウェイのフィヨルド、アイスランドから太平洋に出て、カナダ・アラスカの氷河見物をして、アメリカからパナマ運河を通り、横浜に帰ってきました。このクルーズ中、ニューヨークでは、アメリカ沿岸警備隊がピースボートに出航許可を五日間も出さずに足止めしました。お陰で、マンハッタンを歩き回ったり、メトロポリタン美術館をじっくり見学したりできましたが、船体の整備不良を指摘され、結局フロリダのタンパという街のドックで修理を受けることになりました。このため帰国が十日遅

れて、ベネズエラにも寄航できませんでした。その詫びに、船側が10万円のクーポン券をくれました。この券を無駄にしないために、二度目の南半球クルーズに参加することになったのです。私は決してお金持ちではありません。日々儉約に努めています。

### ● 船内生活の紹介

一回のクルーズは約百日間ですから、退屈しないかという質問をよく受けます。私も、甲板のデッキキチエアに身を横たえて、海を眺めて過ごすつもりでしたが、船内新聞に盛りだくさんの行事や講演会などの予定が発表されて、どれに参加しようか迷うくらいでした。例を挙げると、朝六時から太極拳、六時半からラジオ体操、モーニングコーヒー、七時から朝食です。

朝食と昼食はバイキング形式で、和洋のメニューが用意され、朝食には納豆・海苔・おかゆ・筑前煮やきんぴらごぼうもあります。午後三時にはアフタヌーンティーで、ケーキかクッキーが出て、若い人達はお皿に山盛り食べていましたが、私は中性脂肪が心配なので、一つだけにしました。夕食は着席して、ウェイターが運んでくれた料理を食べました。乗客全員が食堂に座れないので、午後五時半と七時半の二回に分けられました。私は日頃粗食なので、船内の食事には大満足でした。

8月の日限山荘は、例年通り1ヶ月間お休みします。9月は2日(金)から通常どおり開催します。

その他、寄港地で現地の人々との交流会や観光旅行(別料金が必要)があり、船内の地球大学では、田部井淳子さんや、諏訪中央病院の鎌田實名誉院長といったスペシャリストの方々(水先案内人)から、有益なお話を聴くことができました。

### ●今春のクルーズ

二度目の南半球クルーズでは、ペルーのマチュピチュに行くことが私の目的でした。ところが、大雨の土砂崩れで鉄道が不通となり、結局ティティカカ湖観光に行きました。そこで、今度こそマチュピチュに行きたくて、一月二十三日〜四月十八日までのクルーズに参加し、念願を果たしました。

### ●ピースボートとは

若者達を中心に、国際交流を目的にした船旅を主催している非政府組織NGO(市民グループ)です。

ピースボートの初航海は、一九八三(昭和五十八)年に早稲田大学の学生によって、小笠原・グアム・サイパンといったアジアの国々を回るクルーズでした。

現在では、特に中高年の安価な地球一周船旅として利用されている様に思えます。世界遺産や世界各地を訪れますが、後進国の子ども達にサッカーボールや野球の道具をプレゼントするという旅も過去にあり、単なる観光地巡りでは味わえない、本物の異文化を体験できます。

世界旅行の企画と実施は㈱ジャパングレイスという旅行会社が受け持っています。**【次に茶話会出席者の感想を紹介します】**

### ●世界の旅への挑戦、素晴らしい!

宮本 鈴子

長期にわたる世界の旅へ、勇躍挑戦された河西様に、敬意と深い感謝を申し上げます。南米からヨーロッパへと行かれた報告会は楽しく、写真も説明もわかりやすく、感嘆の声しきりでした。横浜を出航して、タヒチ、あこがれのペルーのリマ・クスコ・マチュピチュ、パナマ運河を通って大西洋に出てモロッコのカサブランカ、スペインからイタリヤのナポリ・ソレント、エジプトのアレキサンドリアなどなど、百聞は一見にしかずというけれど、数多くの写真を見せていただき、楽しい時を過ごさせていただきました。ありがとうございます。

### ●世界の旅への動機にびっくり

笹路 真三

三回もピースボートによる世界旅行をされた河西さん、優雅な生活をされている人かと思っていましたら、旅行を始めた動機を聞いて女性達は大爆笑でしたが、か弱き男性老人にとっては、ぞっとするようなショックな話で、びっくりしました。パソコンに取り込んだ旅先の写真を、プロジェクターで壁のスクリーンに拡大映写して見せてもらいました。写真は、構図といい、被写体の捉え方も見事で、世界中の風物を目のあたりに見る事ができて、楽しいひと時でした。帰ってから、河西さんの旅行の動機がとても気になるので、女房に話したところ、「私ならひとりでは行かないわ」とのこと、誰と行くんでしょねー。

### 日限山荘の七夕まつり

日限山荘では、七月五日(火)に、大橋さんご寄贈の竹に願い事の短冊や折り紙飾りをつけ、近藤さんにお願ひした「七夕まつり」の書を飾り付けて、食事会をしました。そうめんサラダ、寒天の黒蜜かけでした。料理を作ってくださいる方は毎回たいへんですが、材料も料理法もバラエティに富んでいて、おしゃべりしながらの会食は楽しく、来場される方、配食希望の方、共にこのところ増えていきます。これも、NPO発足十年という長い間、大勢の方々のご協力の賜によるものでしょう。私は、南舞岡在住ながら、日限山荘のお手伝いをさせていただきます。お陰でずいぶん元気になったと感じています。今年も猛暑が予測されますが、「節電の夏」です。熱中症などに注意して暑い夏をやりすごし、元気で九月にお目にかかりましょう。

三由 令子



七夕飾りの前で記念写真を撮りました。  
大橋さん(左)と河西さん

…「NPO総ぐるみ福祉の会」のホームページ (<http://sougurumi.jp/>) をぜひご覧ください。…

編集:藤井香代